

学校教育目標



自ら学ぶ子

「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

9月号 令和5年9月1日



先生たちって夏休み何をしているの？

学校 Web ページへ 夏休み明けの子どもたちの様子や研修の様子も掲載しています。

校長 藁科 直希

「先生たちって夏休み何をしているの。」と、子どもたちや保護者の方、友人などから尋ねられることがあります。私は、教職員にとっての夏休みは、「子どもたちの成長のために、自分自身を磨き、高める期間」と考えています。教職員にとって、日常で見聞きすることや人とつながることなどの経験は、授業で取り上げたり、子どもたちに伝えたりできる教材の宝庫です。ですので、教職員は常にアンテナを高く張って何か使える種はないかなと考えながら生活しています。もちろんまとまった休みが取れ、休養したり、旅行に出かけたり、家族との時間や自分の時間を楽しんだりできる貴重な機会でもあります。長期の休暇を利用して取り組んだことや体験したことは、教職員の視野を広げ、貴重な財産、教材となります。また、教職員がリフレッシュして心身ともに元気な状態で子どもたちと向き合うこともとても大切なことです。

不祥事防止、働き方、特別支援・児童理解、YP(横浜プログラム)、トラブル対応、ICTの効果的な活用、傾聴、学習に困難を抱える児童の支援、学級経営・・・これらはこの夏に本校で行った研修の内容です。これらの研修の中には、年間で行うことが義務づけられているものや外部講師によるものもあります。一方、教職員のニーズから教職員の専門性や強み、興味関心、課題意識を生かし、全教員が所属する研修チームを複数作り、研修チームが講師となって、教職員向けに行った研修もたくさんあります。研修を行うにあたって、研修チームのメンバーでどんな内容にするのか話し合い、役割分担をし、自分の担当する分野について学び(input)、それをどう伝える(output)のが効果的なのか考えて研修につなげました。研修は、タブレットや付箋、模造紙などを活用し、グループワークを行ったり、対話をしたり、自らの指導について振り返ったり、他の教職員の実践から学んだりする中身の濃い時間となりました。教職員同士の対話が活発に行われ、研修の内容について学ぶことはもちろんのこと、教職員同士のコミュニケーションをより深める機会ともなりました。まさに、今学校教育が進めている主体的、対話的で深い学びが教職員の中で行われていることを実感しました。

この他にも、教職員は自らの資質能力の向上のために、教育委員会主催の研修、市や区の研究会の研修、民間の研修など、それぞれの担当業務や興味関心に応じて様々な研修に参加しています。また、夏休み前までの自分の指導や児童の様子について振り返り、授業改善や指導の改善に取り組む、夏休み明けの授業の教材研究をする、取材をする、出前授業の依頼をする、カメリンピックに向けて演技の振り付けを考え、練習する、校外学習の下見をする、地域の祭りに足を運ぶ、校内の環境整備をするなど、夏休み明け、子どもたちと笑顔で出会い、子どもたちの成長につなげるように、夏休みを有効に活用しています。

「教職員の夏休み」が、夏休み明けの子どもたちの笑顔につながると信じています。